

## 日本での留学生活の感想

私が留学生として日本に来たのは一年前のことだ。私の留学生活はどんなことがあっただろうか。過去の道を振り返ってみると、様々な思い出が浮かんで、感無量になる。

来日後、初めて日本語にふれるのは私にとって大きな問題であった。異文化的背景を感じ、それを受け入れるおかげで、始めはこの国は合わないのではないかと思っただが、三ヶ月日本にいたにつれて、日本語が深く理解できるようになるので、だんだん日本生活になれてきた。日本滞在、毎日のように新しい事が起こる。

熱帯国から来た私は、日本の春夏秋冬という四季を深く印象づけられた。もし、ベトナムの天気がこのような天気になれば、全てが変わるのだろうか。また、日本の天気情報は具体的で面白くて、毎日感心がある。さらに、最高気温の実感や地震が起こる体験や雪が降る好奇心など残る。日本には、四季があるか

る、春には可愛い桜、夏には時々強い雨、秋には赤い紅葉、冬には白い雪だ。私は四季を肌で感じた。

私は、千葉大学を卒業した後、日本語の教師になる夢を叶えようとして来日した。イーストウエスト日本語学校で、勉強のみならず、様々な国籍を持つ友達と交流し、貴重な体験をもたらしてくれた。その上、アジアの先進国である日本は、素晴らしい教育システムを持っているからこそ、意識深い日本人から勉強させてもらいたい。

去年十月二十四日、学校のバス旅行があった。私は、最も感動したのは富士山だ。バスの窓から富士山の頂上を見て、秋なのに、雪で真っ白になっている。道に迷うか、いたずらする学生がいないか、いつも忙しく見守った先生の姿、生き生きと話したり活発に活動する友達、学校と違う雰囲気だ、私にとって、忘れられない記念日だ。

しかし、バスに戻る途中、あいにく骨折し

てしまった。二ヶ月間、学校もアルバイトも行けず、アパートのベッドで横になり、自分の将来をよく考えた。そんな時「七転び八起き」という日本の有名なことわざを頭に思い浮かべて、生活の苦勞を後にして、前向きに踏み出した。

私は悩んだ末に、ベトナムに帰ろうと決めしたが、日本語を勉強し続ける。私の人生にとって、日本に留学したのは宝物になる。絶対に忘れられない。生活に、苦勞があってもかかかわらず、日本での体験を思い出して、また元気になるかもしれない。これから、私はこのような気持ちを持ち、社会進歩に貢献したいと思う。